

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月17日

【評価実施概要】

事業所番号	4271200471		
法人名	医療法人 紫雲会		
事業所名	グループホーム かわたな		
所在地	〒859-3615長崎県東彼杵郡川棚町下組郷397番地 (電話) 0956-20-6858		
評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年11月14日	評価確定日	平成21年2月5日

【情報提供票より】(平成20年 5月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 15人, 非常勤 2人, 常勤換算	6.2 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての 階 ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,500 円	その他の経費	娯楽費500円/月・リネン代100円/日・実費	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.1 歳	最低	76 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	本川医院・長崎神経医療センター・鈴木病院・本川歯科
---------	---------------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「かわたな」は、JR駅やバスセンターが近くにある町中心部に設立されている。事務所は両ユニットの中央にあり、ユニット同士の人の動きがよく見える。室内も日当たりが良く、明るい。それと同様に職員の方々も明るく元気で、親しみやすい雰囲気を感じる。そのためか入居者の表情も豊かで、冗談を言い合ったり、一緒にレクリエーションを楽しまれたりと、笑顔が印象的である。また当ホームは入居者の家族との関係性も重要と考えられ、懇切丁寧な対応と報告を行われることで切れない関係性を築かれている。家族は、気兼ねなく訪ねて来られ、時には一緒に昼食をとられることもある。その事が入居者の退居された後でも継続され、元入居者の家族の方がボランティアとして手伝われたり、遊びに来られるなど、非常に親しみやすい印象を受けたグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価を受けて、改善計画シートを用意されている。その取り組みとして、災害対策では地震による被害を考え直し、地震に対する避難訓練を実施されている事を研修資料を通して確認できた。また、避難マニュアルを事務室のテーブルに貼り付けることで、意識付けされている。地域とのつき合いでは広報誌を近隣に手渡しすることや文化祭などに置かせていただくことで、地域の方々にグループホームを知っていただく努力をされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を全職員で考えられている。また新人の方にとっては出来ていることの確認や、「グループホームに求められていることは何か?」などを理解する手段に役立てられている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1度行われている。参加者は職員・家族代表・入居者代表・民生員・市町村担当者・地域包括支援センター職員などがおられる。会議録も質疑応答などが載せてあり、会議の内容が把握し易いように工夫されている。運営推進会議の討議内容としては当ホームの行事などの様々な報告や、入居者の普段の生活ぶりを見学していただくことでグループホームの意義を知っていただいている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月便りなどを近隣の身内のみならず、遠方に住む親戚にも送られており、大変喜ばれている。その中には個別に日々の暮らしぶりを記載され、家族の知りたい情報が伝えられている。年に1度は無記名アンケートも実施されたり、時には退居された方の家族に尋ねられる事もされている。家族からの意見として職員の名前と顔が一致しないとの相談には、玄関先に職員の笑顔の写真を使い、名前を紹介されるなど、意見に応えるよう努められている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に参加されたり、町の文化祭に作品を出展されたりすることで、地域との交流に繋がられている。また幼稚園児から高校生に至るまで体験学習の受け入れもされている。民生員の方々がグループホームのことを知りたい、ということで、研修の場として提供することも検討されている。他にも当ホームの1階部分はデイサービスがあり、そこに集まる地域の方々との交流も入居者の方々が喜ばれ、地域との切れない関係に尽力されている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての基本理念の他にグループホームの名前を使って職員で考えられた介護理念「家庭的で 笑いのあふれる 楽しい なじみの場」を作られ、地域の中のなじみの場として当ホームを位置づけられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念を当ホームの玄関に大きく掲げられ、常に意識できるように考えられ、また介護理念を手作りで作られ、事務所内に掲示されている。また毎月の全体会議や毎週各ユニットでの会議で唱和され、理念を通して統一されたケアを心がけられている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加されたり、町の文化祭に作品を出展されることで、地域との交流に繋がられている。また幼稚園児から高校生に至るまで体験学習の受け入れもされている。民生員の方々がグループホームのことを知りたがり、ということで、研修の場として提供することも検討されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を受けて、改善計画シートを用意されている。新たな気付きを見出し、さらにホームとして向上できると、外部評価の意義を理解されている。自己評価を全職員で考えられている。また職員の方にとっては出来ていることの確認や、グループホームに求められていることがはっきり認識できた機会となった。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度行われている。参加者は職員・家族代表・入居者代表・民生員・市町村担当者・地域包括支援センター職員などがおられる。会議録も質疑応答などが載せてあり、会議の内容が把握し易いように工夫されている。		

グループホーム かわたな

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当ホームから歩いて行ける距離に役場があり、日常的に往来されている。また役場職員と顔なじみとなり、不意に尋ねて来られるなど相互に相談しながら連携をとられている。また当ホームは川棚町の連絡協議会の主軸として動かれているため、他のホームへの情報伝達も引き受けられている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月便りなどを近隣の身内のみならず、遠方に住む親戚にも送られており、大変喜ばれている。その中には個別に日々の暮らしぶりを記載され、家族が知りたい情報を伝えられている。また行事などでの楽しそうな写真も同封され、職員の異動に関することも確実にお知らせされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や苦情・相談窓口の記載など、家族の意見を尋ねる姿勢を示されている。また年に1度は無記名アンケートも実施されたり、時には退居された方の家族に尋ねられる事もされている。家族からの意見として職員の名前と顔が一致しないとの相談には、玄関先に職員の笑顔の写真を使い、名前を紹介されるなど、意見に応えるよう努められている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は「なじみの関係を重視する」という意向があり、ほとんど異動はない。異動があるときは、職員のマンネリ防止のために2年に1度される程度である。また、職員が働きやすい環境作りを力を入れられており、夜勤や有給の自由が利くように人数を増やすなど、定年まで当ホームで働かれるよう工夫がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当ホームは、職員やパート職員のレベルアップに力を注がれており、外部研修会へは復命書を用意されている。職員が受けた研修の希望を尋ねており、学んだことを報告会で共有されている。内・外部研修は年間計画で予定されており、内部研修は月に2～3回のペースである。また離職を防ぐために管理者が個別に相談に乗るなど、きめ細かいフォローがある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	川棚町のグループホームと合同で連絡協議会をつくられており、その会の中心的な役割をされている。また他のグループホームへ職員が交換研修に出向くことで様々な経験や刺激を受けることができる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望があれば自宅へ訪問したり、見学に来ていただくなどして、馴染みの関係を築かれている。また部屋に空きがあればショートステイを利用してもらう事もある。入居まもなくの方に帰宅願望があれば自宅まで一緒について行き、本人が落ち着くように工夫されている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の中には生け花、習字、ピアノ、英語などの外国語を得意とされている方々がおられ、それらを学ぶことを通じて共に支え合う関係性を築かれている。また、若い職員は入居者に食事の味付けなどを教えてもらうことで花嫁修業をさせてもらっていると伺った。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式を一部採用されて把握に努められている。例えば、会話の中からや、昔の写真を用意して、本人が望まれていることを探られている。日誌に昼は黒文字で夜間は赤文字、医療的に特記事項がある場合は青文字で区別されている。また気づきの項目を用意され、大事な気づきは生活歴などに書き加えられている。</p>		<p>さらに今後は生活を支えるアセスメント、及び気づきの共有がより深くできるような記録の取り方を工夫されることが望まれる。またケアプランに則した記録方法のさらなる充実も期待したい。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者本人と家族にも意見を尋ねて作成されている。また担当職員の意見を中心に、全職員の気づきも取り入れながら作成されている。また、全職員の確認のサインをすることで、確実に介護計画を意識しながら介護ができるように工夫されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の実行ができたかどうかのモニタリングを日誌とは別に用意され、×方式で確認されている。介護計画の見直しは毎月のモニタリングで必要に応じてされている。基本的には3ヶ月に1度行われている。</p>		

グループホーム かわたな

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所内にあるパワーリハビリ室の器具を利用できたり、1階のデイサービスに来られる地域の方々と交流できる。また認知症に対する講演会なども開かれている。今後は、入居者の家族や地域の方々のために介護教室を開くことを予定されるなど、柔軟な支援がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医を希望されれば通院介助などの支援が行われている。その際適切な医療を受けられるように日々のバイタル・飲まれている薬の種類・過去の病歴などを用意して行かれる。協力医院には2週間に1度は受診に向く。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重度化した場合入院されるか、または当ホームで看取りをするかを選んでもいただけるようにされている。また母体が医療法人であるため緊急時にはワンコールで対応でき、家族も安心されている。過去には協力医と相談しながら看取りをされた経験がある。		さらに今後は看取りの方針を明確化され、指針を用意されることで職員が共通した介護支援を行える工夫が望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	書類は全て事務所に保管され、鍵を掛けられている。薬も事務所にある。玄関に基本理念が張り出されており、「痴呆」という言葉が使われてはいるが、現在は特に問題はないようである。言葉かけは入居されるまでの生活歴を通して、誇りを傷つけないように注意され、和やかに会話されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの思いを大切にされ、馴染みの美容院まで送迎したりしている。その際女性は化粧や身だしなみをキチンと整えられるのを待って、その方のペースで支援されている。		

グループホーム かわたな

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所の裏庭に畑があり、そこで採れた野菜と一緒に食べることで、楽しく会話しながら食事をされている。また入居者が魚料理が食べたいという時などには、柔軟に対応されている。A棟とB棟の食事のメニューは違い、それぞれのユニットの好みに応じて支援されている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるよう支援されている。入浴拒否をされる方には声かけを工夫されている。体力的に難しい方には清拭や部分浴を利用して満足感を得ていただいている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	包丁を使った調理や味付けなど、入居者それぞれができる事を見出し、役割をもっていただいている。またレクレーションでお手玉や風船バレーなどを楽しまれている姿が微笑ましく見受けられた。中にはピアノが得意な方がおり、当ホームで生徒を募集し、生徒が成長する様子を喜ばれている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブやファミリーレストランなどの外食を楽しまれている。買い物も店が近くにあるため、職員と一緒に出かける。広いベランダがあるので、そこで気持ちのいい外気浴が楽しめる。また、役場が近いので一緒に出かけて行くこともある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけることはない。もし外出される入居者がおられたら見守り同行などで対応されている。また1階部分はデイサービスもあるので安心である。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	前回の評価を受けて地震災害の対策を立てられた。また夜間訓練を経験され、避難訓練の難しさを体感されていた。地域の消防団も訓練に参加されている。また、いつ災害が起こっても対応できるように机にマニュアルが貼り付けられている。		

グループホーム かわたな

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックや水分量のチェックが行われている。水分量に関しては1,000mを目安にされている。人によってはゼリー状でとっていただく工夫がされている。3ヶ月に1度は社会福祉協議会の栄養士の方にボランティアとして見ていただいている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には書道の先生から書いていただいた基本理念が大きく掲げられている。また壁には入居者が考えられた川柳が飾っており、雰囲気が良い。ベランダは広く、開放的である。居間も畳がひいてあり、ゆったりとできる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室も一人ひとりの部屋となっており、人によってはテレビや花が飾られている。中には手持ちの提灯が入り口にかざっており、個性を感じられる。また部屋の中は明るく、清潔さを感じられ、居心地の良く過ごせるようになっている。		